

# 錦城高校新聞

題字 井口 文章  
再刊 第249号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2017

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：ゴミの調査第二弾！  
スクールバッグ改善に向けて  
二面：北高とジャポナムに履き行ってきた文化プログラムで伝える、五輪の情熱



メリークリスマス

# 「気を緩めず分別続けて」

## 解決に向かうゴミ問題

錦城高校新聞では1学期末の7月、235号にて錦城生のゴミ分別の実態を調査した。しかし夏休み終了直前の段階では、多くの教室で分別がまだまだ不十分な実態が明らかになっていった。2学期も終わりを迎えた今、その実態はいかほどなのだろうか。

回収する人を意識して  
錦城内の施設の整備・美化などを担当する宮崎の小野泰浩さんによると、錦城生のゴミ



ゴミを回収する清水さん。回収業者の常盤組が週に4日回収している



7月に比べ分別ができていない

ただ、ゴミ捨て場のカンを置く場所に汗や日焼け止めのスプレーなどが捨てられていることが度々あるそう。小野さんは「スプレー缶は私たちがガス抜き処理をしてから捨てるので、スプレー缶用のゴミ箱に入れてほしい」と真剣な表情で語る。

### 「ゴミ袋は8分目」

小平・西東京近辺のゴミを回収する業者の常盤組の清水信也さんにも話を聞いた。清水さんは8年前から錦城のゴミ回収を担当しており、現在は月々木のそれぞれの曜日では可燃や不燃ごみを回収しているそう。他の施設と比べても、錦城の分別はかなりのレベルですと清水さん。12年前にこの仕事を始めた頃よりも、回収するゴミの分別は明らかに良くなっているという

## スクールバッグ改善案 話し合い進む

生徒会の意見箱に「学校指定のリュックサックを作って欲しい」などの意見が入れられ、話し合いを進めている。



アンケートの集計結果を聞く代議員会

生徒会の意見箱に「学校指定のリュックサックを作って欲しい」などの意見が入れられ、話し合いを進めている。事前の代議員の代表3人と話し合いの中で中央委員会は一リュックがあったら使うか？使わないか？という質問を予定していた。しかし、初の10月27日(金)の話し合いで代議員から「まず生徒が今のスクールバッグに対してどう感じているのかを調べる必要があるのでは」という意見が出た。その意見により、全

アンケートの結果は、1、2年生が「改善した方がいい」と「現状のままでいい」がほぼ半々、3年生は「現状のままでいい」が若干多いという結果になった。代議員長の飯島ゆいさん(2C)は集計した印象を「3年生は直接影響がないからか『現状のままでいい』という意見が多かったですが、自由記入の改善案を一番しっかりと書いてくれたのも3年生でした」と話す。

その後11月27日(月)に行われた代議員会では「生徒の声がほぼ半々の現状で、このまま改善に向けて話

## 「優勝できてよかった」ハンド部の

11月26日(日)に行われた第13回江戸川区秋期ハンドボールオープン大会で女子ハンドボール部が優勝した。女子ハンドボール部部長の秀徳(ゆたか)さん(2L)、最優秀選手賞を受賞した安里(あん)さん(2L)に話を聞いた。今年度は去年に続き二度目の優勝だそう。決勝戦はそれまでの試合に比べて「相手がよく動き回っていたため、誰を見ればいいのか分からずに混乱しました」と秀徳さんは話した。練習では速攻のパスをうまく出せなかったり、ディフェンス同士の連携がうまく取れなかったり、中身の紙片が地面に散った場面があった。5分ほどで掃除を終えた清水さんは「ゴミ袋のなかにいっばいゴミが詰まっていたら大変です」と話した。



優勝を受け笑顔で話す2人

## 「大学で何をするか」を考え学部選びを

12月9日(土)、一年生対象に情報集中講義が行われた。大学の講師から学部の内容や必要な知識などについて各教室で講義を受けた。



機械系の仕事は非常に多岐にわたる

医療学では北里大学の美坂(みさか)さんに話を聞いた。従来の医療は医師が中心となっていたが、現在は看護師や理学療法士など多岐にわたる。また、近年は医療専門職が連携して治療やケアを行う「チーム医療」が広まっているそう。それによつてどの医療専門職でも自分の専門の深い知識はもちろんな、他の医療スタッフの知識やコミュニケーション能力も大切になってくるという。進路について「自分の強みや、欠点は何なのか、自分は何がしたいのかを日常的に考えることで間違いのない学部が選べる。自分の持っている大まかなイメージを大切にすることが大切」と田中(たなか)さん。機械工



「錦城の分別はきれい」と清水さん

## 本の福袋フェア

図書委員会では「本の福袋フェア」と題して、本の貸し出しを行っています。福袋は図書委員の生徒がテーマを決めて何冊かの本をパッキングしています。包み紙に書かれたテーマを参考に本を選んでみてください。新たな発見があるかも!?

## 小平の冬野菜はいかがが？

12月22日は冬至。カボチャを食べたり、風呂にゆずを浮かべたりする生徒もいるのでは？

先日の小平市報でも取り上げられた高橋農園は、錦城正門を出て左すぐにある農園。季節の様々な野菜が直売されています。

この直売所には、冬至にピッタリのゆずもずらり。お風呂に浮かべるだけでなく、香りを楽しむのもまた一興。他にも白菜などが売られています。寒い日に鍋などを囲み、ほっこり温まるのもいいかもしれません。

錦城から歩いて1分内！  
野菜の種類も豊富です

今が旬！  
食べてもよし！

新鮮でみずみずしい野菜はいかが？

## むらさき草

あちこちで鮮やかなイルミネーションをみかけようになり、クリスマスが近づいているのを感じる。景色を彩るイルミネーションは、見ている人たちの心を温める。一か月前には黄色のシャヤデリアのようだった錦城高校のイチョウの木だが、今はすっかり葉が落ちてしまったところ、このように寒い季節に花を咲かせる植物がある。ヘルボレス、通称クリスマスローズだ。「クリスマス」という名前から、12月下旬に花を咲かせるのかもしれない、12月を過ぎた1月以降に咲く品種はごく一部で、ほとんどは12月を過ぎた1月以降に咲くそう。見た目もさることながら、花期が長いこともあり、プレゼントとして大きな人気を誇る。クリスマスローズを贈るとき、気になるのは花言葉だ。時は古代ヨーロッパ。騎士が戦場へ行く際、恋人へクリスマスローズを送ったことから「追憶」「私を忘れないで」といった花言葉がついている。しかし麻酔性と刺激性の毒を持ち、時には死をもたらす場合があることから「中傷」という花言葉もある。これは「クリスマス」と全く関係ないので「は？」と思ってしまうが、クリスマスと関係する伝説はある。クリスマスといえどイエス・キリストの誕生日だ。キリストが生まれた際、マデロンという少女がお祝いに駆けつけた。多くの人たちがキリストと聖母マリアに祝いの品を送る中、貧しい彼女はお祝いの物がなくて涙を流す。すると涙が落ちた所からクリスマスローズの花が咲いた。マデロンはその花を摘み取り、キリストに捧げたという▼思想家の中村天風の言葉で「一時は種の通り花が咲く」という言葉がある。今の状態は未来に影響を与えるという意味だ。明日からは冬休み。今のうちに何かを積み重ねていけば、クリスマスローズのように1月以降に花が咲くかもしれない。(英)